令和８年度病害虫発生予察情報　特殊報　第２号

令 和 ８ 年 １０ 月 １９ 日
広 島 県 西 部 農 業 技 術 指 導 所

１　害虫名　　チュウゴクナシキジラミ　*Cacopsylla jukyungi*（Kwon）

２　発生作物　　二ホンナシ

３　特殊報の内容　県内におけるナシでの発生及び被害を初確認

４　発生経過

(1)　令和８年８月19日、広島県中部のナシほ場にて、キジラミ類と思われる成虫、幼虫及び葉にろう状物質や甘露の付着を確認した。これらのサンプルを農林水産省神戸植物防疫所に送付したところ、チュウゴクナシキジラミであると同定された。

(2)　広島県内において本虫による被害が確認されたのは、今回が初めてである。

５　国内の発生状況

本虫は、平成23年に佐賀県で国内初の発生が報告されており、平成24年に山口県で発生が報告されている。

６　被害及び主な加害植物

幼虫が主に葉の主脈付近で吸汁し、排せつ物（甘露）にすす病が発生するほか、葉の黄化と早期落葉を引き起こす（写真１）。果実への寄生や直接的な被害は確認されていない。なお、果実でも排せつ物が付着した場合にはすす病が発生するため、商品性が低下する。

７　形態及び生態

(1)　本種はカメムシ目の昆虫であり、季節によって体色及び体の全長などが異なる季節型が確認されている。夏型成虫の体色には青緑色～黄色及び橙色の色彩変異が認められ、全長は2.2～2.8㎜程度である（写真２）。冬型成虫の体色は黒褐色で、全長は2.8～3.5㎜程度である。終齢である５齢幼虫は全長1.4～2.0㎜で体型はへん平である。幼虫の体色は、若齢幼虫は淡黄色であるが、齢が進むにつれて夏型幼虫（写真３）は淡緑色～黄色、冬型幼虫（写真４）は黒褐色に変化する。

(2)　成虫で越冬し、冬季はナシ樹の樹皮の割れ目などに潜んでいる。越年した雌成虫は２～３月に短果枝基部に産卵し、幼虫は新芽に寄生して吸汁する。４月下旬から夏型成虫が発生し、秋まで繁殖を繰り返す。冬型成虫は10月下旬から現れ、低温下で長期間生存が可能である。

８　防除対策

(1)　果そう部や葉に付着する甘露や幼虫が尾部から排出する白いろう状物を目安として、本虫の早期発見に努める。

(2)　薬剤散布については、農薬使用基準（使用量、希釈倍数、使用時期、使用回数など）を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。

(3)　最新の農薬情報は、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」の「農薬登録情報提供システム（https://pesticide.maff.go.jp）」に記載されている。



写真１　被害葉



写真２　夏型成虫



写真３　夏型幼虫



写真４　冬型幼虫

○病害虫発生情報に関するお問い合わせ先
西部農業技術指導所（植物防疫チーム）
（〒739-0151　東広島市八本松町原 6869　電話 082-420-9662 ）
広島県立総合技術研究所 農業技術センター生産環境研究部
（〒739-0151　東広島市八本松町原 6869　電話 082-429-0521 ）
農林水産局農業技術課
（〒730-8511　広島市中区基町 10-52　電話 082-513-3559 ）

○病害虫発生予察情報は，広島県ホームページで閲覧できます。
https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/